

令和3年2月8日

高砂市上下水道事業管理者
西村 裕 様

高砂市上下水道事業審議会
会長 山口 隆 英

高砂市水道事業、工業用水道事業及び下水道事業
の経営戦略策定について（答申）【案】

令和元年8月30日付高水諮第1号で諮問のありました「高砂市水道事業、工業用水道事業及び下水道事業」の経営戦略策定について、下記のとおり答申します。

記

当審議会では、諮問から本日を含め計7回会議を開催し、専門的な見地や市民としての視点から、さらにはパブリックコメントによる市民の意見も踏まえ、慎重に審議を重ねてまいりました。

上下水道事業は、人口減少社会、施設の老朽化、頻発する自然災害、新型コロナウイルス感染症など経営環境が目まぐるしく変化する中、市民生活を支える重要なライフラインであるため、「安全」、「強靱」、「持続」が求められており、その点を踏まえた事業の推進を要望します。

なお、各事業の経営戦略については、以下のとおりです。

【水道事業経営戦略】

今後、給水人口の減少による給水収益の減少のもとで、施設、管路の耐震化、老朽化による更新費用の増加が見込まれることから、計画的な経営を行うことにより、将来にわたり安全・安心な水道水を安定的に供給していくことが強く求められています。

そのような状況において、必要な事業の着実な実施とそのため財源確保において収支の均衡を図り、今後10年間にわたって健全な経営を維持するための「投資・財政計画」が具体的に示されており、経営戦略として妥当なもの認められます。

なお、施設、管路の更新を進めるため、令和5年度に水道料金を30%の引き上げを想定した収支シミュレーションを行っていますが、まず高砂市水道事

業として経費削減や収入を増やす取り組みを行い、一層の経営の効率化を図りたい。

また、水道料金改定にあたっては、市民生活に与える影響が大きいため、当審議会での議論はもとより、広く市民の意見を聴くとともに市民への説明についてもしっかりと行うことを要望します。

【工業用水道事業経営戦略】

受水企業2社からの負担金をもとに運営をしていますが、今後の運営のあり方について協議していく必要があります。今後10年間の「投資・財政計画」において収支均衡が図られ、経営戦略として妥当なものと認められます。

なお、特別負担金については、水道事業会計に寄付金として収入されていますが、これまでの経緯と現在の状況を踏まえ、合意が得られるよう受水企業2社と積極的に協議を重ねていくことを要望します。

【下水道事業経営戦略】

今後、人口減少により下水道使用料の大幅な増加が見込めない中で、改築、更新等が必要な下水道施設が増大していくため、経営を取り巻く環境は、一段と厳しくなります。

その中で、ストックマネジメント計画に基づく、今後10年間の「投資・財政計画」において、下水道使用料の引き上げを想定することなく収支均衡が図られ、経営戦略として妥当なものと認められます。